

Tachyon

[タキオン]



なかにし礼氏によって作詩された公立小松大学校歌のタイトルは「光より速きわれら」。ときに光速をも超える思念やインスピレーションが本学学生・職員のスピリットから発せられるよう念願し、本誌のタイトルとして選んだのが「タキオン」(Tachyon)である。Tachyonは、未だ確認されていない粒子であるが、光より速い速度をもつとされ、ギリシャ語の「ταχύς(速い)」を語源とする。

学長 山本 博

(図出典：Institut for teoretisk Fysik)

We Enjoy Campus Life

将棋サークル
(紹介は、裏表紙)

※大学HPでは、広報室学生委員によるサークル突撃取材の記事を公開しています。



01 第5回公立小松大学祭「青松祭」

03 大学TOPICS

05 国際交流／海外連携事業

06 教員紹介 橋本貴子 国際文化交流学科准教授

07 サークルPick Up、公立小松大学同窓会

vol. 10

2023.03

2023年2月～9月

主な大学スケジュール

2月20日(月)～4月7日(金)

春季休業

2月25日(土)

一般選抜(前期日程)

3月10日(金)

一般選抜(中期日程)

3月23日(木)10時～

学位記授与式 @小松市團十郎芸術劇場うらら

4月2日(日)10時～

入学宣誓式 @小松市團十郎芸術劇場うらら

4月3日(月)・4日(火)

新入生オリエンテーション

4月5日(水)

きずな合宿 ※新入生対象

4月6日(木)・7日(金)

健康診断

4月10日(月)

前期授業開始
※履修登録は4月21日(金)まで

7月15日(土)

オープンキャンパス

7月28日(金)～8月8日(火)

前期試験(補講・試験予備日含む)

8月9日(水)～9月26日(火)

夏季休業

9月27日(水)

後期授業開始
※履修登録は10月10日(火)まで



サークルPick Up 将棋サークル

中桐 現在メンバーは6人で、中央キャンパスの演習室で、週1回活動しています。
浅野 メンバーは初心者の方が多くですが、経験者が戦法をアドバイスしたり、対局後にお



中桐 自分が良い手を指すことができるときや、他の人の筋の良い手を見るとわくわくします。
浅野 将棋は一手一手が勝敗に直結

将棋の魅力をお教えください

香車

互いの指し手の感想を言い合ったりしながら、気軽に将棋を楽しんでいます。



サークルとしての目標は?

王将

するので、緊張感がある分、勝ったときの嬉しさは格別です。

中桐 まだメンバーの数が少ないので、まずは将棋に興味を持ってもらえるよう、将棋の面白さを伝えていきたいです。
浅野 いつかは地域で開催されている大会などにも出場してみたいです。

会員
随時募集中

公立小松大学同窓会が発足しました

公立小松大学初の卒業生の輩出に合わせ、同窓会員相互の親睦を図り、母校の発展に期することを目的に、「公立大学法人公立小松大学同窓会」が発足しました。

9月3日(土)に中央キャンパスで設立総会を開催し、会長には、2021年度国際文化交流学科卒業の中村瑠人さんが選ばれました。

同窓会では、総会の開催や大学発展のための支援等、様々な活動を展開する予定です。活動内容は大学ホームページで随時発信します。



公立小松大学同窓会
会長 中村瑠人



PICK UP

青松祭の売上金の一部を「小松市
災害義援金」に寄附しました

12月9日（金）、青松祭実行委員の学生4人（生産システム科学科2年 谷内悠亮さん、高野夏々海さん、谷内洋貴さん、国際文化交流学科2年 細川愛実さん）が小松市役所を訪れ、青松祭の緑日の売上の一部を「令和4年8月の大雨による災害小松市義援金」に寄附しました。



青松祭実行委員からのメッセージ

実行委員メンバーの誰もがオンラインでの青松祭しか経験していない中、手探り状態で運営を進めてきました。3年ぶりの対面開催だからこそ、今年こそ「みんなが参加し、みんなで盛り上げる」青松祭を目指し、意見を出し合って様々な企画を考えました。当日は学生はもちろん、地域の方々にも多数ご来場いただき、目標を達成することができたと感じています。一緒に盛り上げていただいた皆様に心から感謝いたします。



こまつ芸術劇場うららの大ホールでは、吹奏楽サークル、ダンスサークル、軽音サークルが、ステージ発表で会場を魅了しました。青松祭と同時開催された「こまつもんフェスタ」（主催：こまつまちづくり応援隊）のステージでは、仮装大会を開催。優勝したのはベーターヴェンに扮し、華麗なバイオリン演奏を披露した・・・山本学長でした！



パネルや展示品、体験ブース等による学科紹介。個別進学相談も実施しました。

緑日・お化け屋敷



親子連れに大人気の緑日コーナー！射的、輪投げ、ヨーヨーなどを楽しむ子供たちの笑顔にスタッフの学生たちも嬉しそうでした。本格的なスリルを味わえるお化け屋敷は長蛇の列！お化けさんもお疲れ様でした。



第5回 青松祭

2022年10月22日(土)

中央キャンパス、こまつ芸術劇場うらら



3年ぶりの対面開催となった大学祭「青松祭」。今回のテーマは「一祭合祭～ All together as one～」で、青松祭実行委員会のメンバーが「青松祭に全員が参加してほしい、全員で盛り上げていきたい」という思いを込めました。たくさんの方々にご来場いただき、大いに盛り上がりを見せた大学祭の様子を紹介します。



サークルによる模擬店。料理サークルによる心も身体も温まる豚汁やメイド服の美女!?が販売するからあげなど、個性豊かな全12店舗が出店。早々に売り切れるブースもあるなど、多くの来場者で賑わいました。



輝く公立小松大生

第5回全国大学生俳句選手権大会 グランプリ

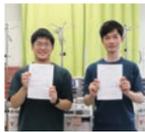
東 美里さん(国際文化交流学科3年)

作品「短編めく 駅のざわめき 夏の雨」



第1種ME技術実力検定試験合格 (公社)日本生体医工学会

河島 遼太郎さん
(大学院ヘルスケアシステム科学専攻1年)
渡澤 直樹さん(臨床工学科4年)



(左から)河島さん、渡澤さん

小松の観光大使 「こまつ姫御前」に選出

米澤 紗来さん(国際文化交流学科3年)



第40回全日本中国語スピーチコンテスト

石川県大会1位/
全国大会3位・日中友好会館賞

小室 春佳さん(国際文化交流学科4年)

長野県大会1位/全国大会奨励賞

小林 美月さん(国際文化交流学科2年) (左から)小室さん、小林さん



石川県アンサンブルコンテスト 加賀支部大会・県大会 金賞 (フルート二重奏)

赤峰 優奈さん(国際文化交流学科4年)
寺谷 暖香さん(国際文化交流学科2年)



(左から)寺谷さん、赤峰さん

日本語スピーチコンテスト (小松市国際交流協会)

2位 沈 紫怡さん(留学生/中国・常州大学)

3位 姚 詠淳さん

(留学生/台湾・建国科技大学)



(左から)姚さん、沈さん

教員受賞・功績一覧

■生産システム科学科

酒井忍教授 (一社)日本機械学会
「技術功績賞」

歌野原陽一教授 日本混相流学会
学会賞「技術賞」

史金星准教授 (一社)日本機械学会
設計工学・システム部門
「フロンティア業績表彰」

■臨床工学科

藤田一寿准教授 単著論文が情報科学の専門誌
「PeerJ Computer Science」に掲載

■国際文化交流学科

長辻幸准教授 日本英語学会
「日本英語学会賞(著書)」

塩谷 サルフィ マクスーダ教授
インド「プラヴァシ・バラティヤ・サマン賞」

★シーズ・ニーズ マッチングシンポジウム

12/10 (土)

本学では、大学の持つ研究シーズ(研究の種)を広く地域に公開し、地域のニーズとのマッチングや地域の課題解決にむけた協働を推進するシンポジウムを開催しています。今回は中央キャンパスで全学部合同形式で開催し、約70人が参加しました。

講演では、株式会社ギケン石川義一代表取締役社長が「切削工具開発における課題や展望」について、臨床工学科の橋本泰成教授は「リハビリ機器や生活支援機器の開発」について紹介しました。



ポスター発表では学部ごとにブースを設け、各学部の教員及び生産システム科学部の学生、大学院生産システム科学専攻の学生がそれぞれの研究内容を説明しました。

★学長表彰 受賞者一覧

学長表彰は、学業成績優秀者のほか、課外活動において優秀な成績を収めたり、社会活動において特に顕著な功績をあげるなど大学への貢献を認められた学生・学生団体に贈られます。表彰式では、学長から受賞者へ今後一層の活躍を期待するメッセージが送られました。

【受賞者】

北村麻衣(国際文化交流学科3年)、東美里(同3年)、渡澤直樹(臨床工学科4年)、ボランティアサークル



★「障害者雇用優良事業所」として感謝状を拝受

1/31 (火)

多年にわたり、障害のある生徒の職場実習の受け入れや就職に寄与したとして、石川県特別支援教育振興会より感謝状をいただきました。



★市民公開フォーラム 「地域連携により サステナビリティを世界に発信」

11/19 (土)

「地域連携によるサステナビリティ(持続可能性)」をテーマに講演会および報告会を開催し、学生や教職員、市民など約100人が参加しました。

講演では、総合地球環境学研究所の近藤康久准教授が具体例を交えながらオープンチームサイエンスについて解説。本学大学院サステナブルシステム科学研究科の高山純一教授は、地域公共交通の課題および解決策について紹介しました。

さらに、米国カリフォルニア州にあるシリコンバレーオフィスで本学学生と共同でワークショップなどに取り組んだ企業参加者3人が、それぞれ「SDGs(ジェンダー平等、産業と技術革新、クリーンエネルギー)の実現を目指して」と題し、研修での成果報告を行いました。



★大規模災害訓練に 看護学科2年生が参加

11/26 (土)

中部9県の災害派遣医療チームによる大規模な災害訓練が石川県内で行われ、看護学科2年生が小松市民病院での訓練に参加しました。

小松市民病院では、運ばれてきた重症者の容体を確認し、安全な施設へ搬送する訓練が行われ、学生たちは傷病者役や搬送者役を担いました。

緊迫感のある本番さながらの訓練で、学生たちにとって普段の講義では得られない救急医療現場を肌で感じる大変貴重な機会となりました。



★ホンジュラス 国立人類学歴史学研究所長が来学

10/28 (金)

ホンジュラス国立人類学歴史学研究所長のロランド・カニサレス氏が来学し、午前中は小松市長を表敬訪問され、午後は1年生が受講する共通教育科目「文化人類学」の授業で講義いただきました。学生たちは普段聞き慣れないスペイン語に一生懸命耳を傾けながら、ホンジュラス共和国や文化遺産に関する知見を得ている様子でした。

本学では今後、ホンジュラス国立人類学歴史学研究所と連携し、研究活動や学生の海外研修等を実施していく予定です。



教員紹介

KOMATSU UNIVERSITY



橋本 貴子 准教授
(国際文化交流学科)
Takako Hashimoto

昔の人は漢字をどのようにに発音していたか

私は、中国語の昔の発音を推定し、さらに昔から今に至るまで、発音がどのようにに変化したのかを研究しています。特に、唐代(618~907年)の中国北方では数々の音声・音韻変化が起きたと言われており、その時代の発音を対音資料等を用いて研究しました。対音資料とは、外国語の発音を漢字で音訳したものや、中国語の発音を外国語の文字で表記した資料のことです。資料成立時の発音を直接かつ比較的忠実に反映して

おり、昔の発音を推定する際の重要な手掛かりとなるため、私の研究では、この対音資料を重視しています。

今は特に漢訳仏典の中に見える仏陀(Buddha)、健陀羅(Gandhara)などの固有名詞や、夜叉(yaksa)、菩提(bodhi)、涅槃(nirvana)といった仏教用語、それから呪文中の語句、例えば南無(namō)のように、インドの言葉を漢字で音訳したものを扱っています。

大学時代に1年間、中国の広州と台北に語学留学しました。帰国後に中国語音韻史に興味を



上海龍華寺の仏堂内。経幢に漢字音訳された陀羅尼(サンスクリット語の呪文)が書かれている。

持ち、大学院では主に隋唐期の発音を研究しました。とりわけ唐代の都である長安の発音は、日本語の「漢音」と呼ばれる漢字音の元になったもので、小さい頃から日本史が好きで、特に遣唐使に憧れていた私にとっては、とても興味深く感じられました。隋唐期の発音への理解が深まれば深まるほど、遣唐使船でははるばる中国に渡り、現地で学んだ中国語の発音を日本へ持ち帰った人々に少しでも近づけたような気がして、どんどん中国語音韻史の勉強にのめり込んでいきました。

また結婚後に縁があり、中国上海に6年半住んでいました。学生としての留学とは違い、生活圏で現地の中国人の方々と交流できたことは貴重な体験でした。中国の人達の現実的、合理的でありながらも柔軟で寛大な考え方に、私は多くのことを学びました。

中国語が身に付く 充実のカリキュラム

本学の国際文化交流学部では英語と中国語を必修としているため、学生は少なくとも1年間は中国語を必ず勉強します。1年次の授業は日本人教員とネイティブ教員が連携して担当し、基礎的な発音と文法、常用の単語をみっちり練習して覚えます。2年次の授業は主にネイティブ教員が担当し、中国語の総合的な運用能力を伸ばします。3年次は更にレベルアップしたい学生のために、高度かつ専門的な中国語の授業が幾つも用意されています。

私の休日



コーヒーが好きで、以前は一日に何杯も飲んでいました。今は一日に二杯までにしていきます。最近はおやつタイムに、一目惚れして買った丸谷焼のカップでコーヒーをいただくのが、密かな楽しみです。

また中国語圏の大学との交流や、協定校である中国の東南大学、常州大学、台湾の国立中央大学、建国科技大学への交換留学制度もあり、中国語をより深く学ぶことができる環境が整っています。



国際交流 / 海外連携事業 International Exchange Program

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、交換留学や交流会が中止や延期を余儀なくされていましたが、今年度は約2年ぶりに海外で語学研修を開催するなど、徐々に国際交流活動が活発化ははじめています。2023年は海外協定校での語学研修や異文化体験実習、交換留学など、様々なプログラムを実施する予定です。

ウェスタンワシントン大学 (米国) 夏季語学研修

8月1日~15日の2週間の夏季語学研修に、国際文化交流学科の学生7人が参加しました。学生たちは平日午前中は英語の授業を受け、午後は学外施設の見学や各種アクティビティに参加。週末はウェスタンワシントン大学の学生や教職員とともに大学周辺の公園や湖などでピクニックをするなど、充実した時間を過ごしました。



東南大学 (中国) と オンライン学生交流会

8月29日~9月2日に国際文化交流学科の学生15人が、部局間交流協定校である東南大学外国語学部日本語学科の20人以上の学生とオンライン交流会を行いました。交流会では、中国国内で働く方々や、本学卒業生によるテーマ別のプレゼンテーションを聞いた上で、異文化理解、日本企業、日中交流などをテーマにディスカッションを行いました。



オースティン・ピー州立大学 (米国) 学生・教員が来学

12月13日に、大学間交流協定を締結しているオースティン・ピー州立大学から学生8人、教員2人が来学。春休みにオースティン・ピー州立大学の英語研修に参加予定の学生6人とともに、こまつ曳山交流館みよっさを訪れ、本学学生が館内を同時通訳で紹介しました。また、学生同士フリートークで盛り上がり、別れ際に米国での再会を誓い合いました。



保健医療学部 JICA 青年研修 (オンライン)

11月30日~12月27日に保健医療学部の教員が、英語圏アフリカ諸国の医療機関で働く研修員に対し、地域保健医療をテーマとした講義や、末広キャンパスから教育現場をライブ配信しました。研修の終盤には研修員による発表セッションが行われ、教員たちは研修員との交流を通して、海外の地域医療サービスの現状について、理解を深めました。



産学合同シリコンバレー研修

3年ぶりに本学のシリコンバレーオフィス(米国カリフォルニア州)に学生と地域の社会人を派遣する「産学合同シリコンバレー研修」を開催。研修期間は9月11日~17日の7日間で、企業参加者4人(現地企業含む)、学生11人が参加しました。現地企業やスタンフォード大学、サンフランシスコの観光地などを訪れたほか、学生と企業参加者が協力してグループワークに取り組み、研修期間で得た成果をまとめ、発表しました。



▶ 研修報告書を本学ホームページに掲載しています。

